北海道医歌人会詠草

ヤマモミジ

札幌　浜島　泉

ヤマモミジ小枝が明かる日の光風の流れも春めきて来つ
空港にシカが侵入飛び跳ねて防護の柵も越えて入りしか
ユニセフの出血熱の支援募金応へ送らん地上の地獄
恵方チョコセール終はりて桜餅コンビニ幟またも変はりて
老人が押すには重き開き扉を把持して彼が行き過ぐる待つ

夕闇に坐す

釧路　児玉　昌彦

思い出の樽傾けばトクトクと苦き甘汁ほとばしりいず
恋唄を共に唄いし女性なれど「優柔不断」と言い置きて去ぬ
引き返す道はなけれどこの道でよかったのかと心ゆらぎて
人生の幕下りなむに我が心あせるな今更甲斐なきものを
生きるとは個と環境のせめぎ合い方程式の解はいずこに

水芭蕉

旭川　稲積　文子

世俗など離れて静かに清流の中に佇む水芭蕉の群
心痛むことなどすべて忘れたし水芭蕉にやさしく囲まれ乍ら
何時の間に成長せしか親の事業継いでくれる娘に幸多くあれ
一年に一度のボーリング会八十才を過ぎて準優勝するとは
青々と吾が校庭に繁る蕗山菜料理は俗も徳もなく

遅い春

江別　三宅　浩次

遅い春北国の花咲き競い行き交う人ら歩み緩めて
陽だまりのベンチに二人語り合うリラ冷えというはよそごとのよう
一斉に花咲き誇り一斉に花散り果てる北国の春
始まりはエゾムラサキで花色の移ろい楽しピンク・白・赤
過ぎし日の年々歳々花同じ人同じからずを教えとして

原子力発電所

札幌　古屋　統

首実験運転免許証をコピーされ原子力発電所の健診に入る
付与されし暗誦番号打ち込みて検問所の柵通り抜けたり
担当者日毎替れば検問の所要時間も日毎に変る
再開の目途の立たざる原発が千数百の人を養う
受診者ら検査の手順知り馴れて命を待たずに手指を差し出す

平成二十七年四月

美唄　吉村　誠治

松前の桜の開花伝はりぬクラブの手入れしつつ待つ日々
「假オープンは四月四日です」支配人の声力漲る
この冬はアルペンコース雪少なくゴルフシーズン目の前にある
七月の開場二十周年のイベントを集大成とせんか米寿の我は
今日も又「ノロ」の発生報じあり季節の流れ変り来れり